

# 社会福祉法人翠燿会

## 令和7年度事業計画書

特別養護老人ホームグリーンヒル  
グリーンヒル短期入所生活介護  
グリーンヒル居宅介護支援事業  
グリーンヒルデイサービスセンター  
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台  
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護  
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業  
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護  
同上 サテライト勝田台  
グリーンヒル訪問介護事業  
同上 サテライトj儀容  
グリーンヒル八千代台南デイホーム  
グリーンヒル八千代台キッズルーム

### 障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上  
グリーンヒルキッズゆりのき台  
グリーンヒルキッズ・ジュニア

### 児童自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター  
介護予防支援事業

法人総務課

令和7年3月

社会福祉法人 翠燿会

## 【令和7年度事業計画】案

特別養護老人ホーム グリーン・ヒル 短期入所生活介護 グリーンヒル

### 1. 目標稼働・目標施策

- ・稼働率(長期+短期)年間平均115名とし、長期登録者105名を維持する事で稼働率を確保する。
- ・日常生活継続支援加算の継続算定。(36単位/日)  
⇒認知症自立度Ⅲ以上(65%以上)もしくは要介護4・5割合(70%以上)の要件を満たす。
- ・継続算定加算  
夜勤職員配置加算(16単位/日)、個別機能訓練加算(12単位・20単位/日)  
褥瘡マネジメント加算(13単位/月)、認知症ケア加算(3単位/日)  
排せつ支援加算(10単位/月)、栄養マネジメント強化加算(11単位/日)  
看護体制加算(4単位・8単位/日)、科学的介護推進体制加算(40単位/月)  
ADL維持加算(30単位/月)、生産性向上推進体制加算(10単位/月)  
高齢者施設感染対策向上加算(10単位・5単位/月)  
協力病院機関連携加算(100単位/月)、施設処遇改善加算  
※現在の算定加算が継続できるよう、職員の確保。外部研修で喀痰吸引の実施を検討。

### 2. 組織体制の強化

- ①多職種(栄養士・看護師・機能訓練士・介護職等)と連携を図り、体調不良者の早期発見に努め嘱託医・協力病院等連携し体調管理に努め入院者の低減を図る。又、看取り介護にも努める。
- ②法人の事業所(勝田台包括・居宅介護支援事業所・通所介護・訪問介護・グリーンヒル八千代台等)と円滑に連携を図り、常にご利用者の利益を優先する。

### 3. 施設サービス体制の強化

- ①ご利用者の安全・安心できる介護の為、見守りベッドセンサーや介護ロボットの導入(令和7年度の補助金に向けて協議を行う)。又、介護負担軽減の取組みとして、職員の介護力や記録のIT化の継続。
- ②感染症に対し、苑内・外部研修を行い、ご利用者・職員の体調管理・衛生管理を徹底し、施設内感染の予防に努める。
- ③介護計画書の書式に基づく、ご利用者への生活支援内容の充足。
- ④機能訓練指導員による、残存機能の維持・向上の普及に於ける相乗効果を図る。
- ⑤BCPを基に災害・感染症対策の研修及び実地を通し、随時見直しを行う。
- ⑥法定研修・個別の研修計画を作成し知識を得る。

### 4. 介護指針の構築

- ①目標としてユマニチュードの認証取得を目指す。研修や教育研修委員会による施設内研修の更なる強化による職員教育の向上。
- ②看取り介護の構築・・・「その人らしく最後まで」
- ③生活の中に音楽を取り入れて、心身の健康促進・コミュニケーションに努める。  
.....音楽療法の推進

# グリーンヒル 医務課

## —令和7年度看護方針—

### I.看護理念

1. ご利用者が「その人らしく」生活できるように、予防、予測をもった看護を提供し健康管理を行ないます。
2. 多職種との協働、情報の共有をし、安全、安心な看護、介護の提供を行い生活の質の向上に努めます。

### II.重点施策

各ユニット毎を担当制とし、会議・委員会へ参加して情報共有しケアに生かす。  
アセスメントツールに基づき利用者の全体像（身体面・心理面など）を把握する。  
介護職員へは、指示内容や依頼事項はわかりやすい表現で伝達し、利用者へのケアを充実する。

#### 1-1) ケアプラン遂行の協力

##### 2) 健康管理

- ① 食事
- ② 入浴
- ③ 排泄
- ④ 服薬管理
- ⑤ 感染管理基本
- ⑥ 褥瘡の予防及び処置

##### 3) 看取り看護・介護の実施

#### 2-1) 協力医療機関との連携

- 2) 栄養マネジメントの実施
- 3) 理学療法士・作業療法士との連携
- 4) 短期入所者への対応
- 5) 職員の健康管理

# 令和7年度栄養課事業計画（案）

はじめに

令和6年度4月介護・医療報酬改正により、栄養関連（栄養ケア・マネジメント実施）を基軸に、栄養強化加算（栄養・リハ・口腔の一体的取組（LIFE）・再入所時栄養連携加算・退所時栄養情報連携加算（新設・医療機関・在宅介護支援専門員）栄養情報提供料（新設・医療機関）要件、管理栄養士の配置2.2人体制を整備している。（R7.2月）

当課の実務は施設・通所介護・医療・地域包括ケアと連携を推進し、下記のⅠ、Ⅱの事業計画（案）、予算（案）を提示する

## 記

- Ⅰ「給食管理」…
- ・利用者の重度化の身体的要因、咀嚼・嚥下機能低下、うつ・認知症、低栄養状態を勘案し、健康維持・食べる楽しみの供与目標推奨量を日本人の食事摂取基準（2025年版）を準用し、適正に運用する
  - ・給食システム クックチル方式（グリーンヒル、グリーンヒル八千代台特養）
    - ・給食業務運用委託化更新、委託業務の委託料（食材料費、労務費は協議の上契約更新）
    - ・グリーンヒル特養・デイサービス・グリーンヒル八千代台特養の利用者の食費料金については、事業費を鑑みる事案
  - ・栄養ケア人生会議（ACP）①看取り同意後、家族、利用者（嗜好、郷土料理）
    - ②申し込み制③調理担当：管理栄養士④やわらぎ膳 料理2000円（改定）

## Ⅱ「栄養管理（ヒト）」… 関連する業務・算定件数予算（案）

	主な介護報酬加算項目	単位	グリーンヒル 件数	グリーンヒル八千代台 件数
施設系	栄養ケア・マネジメント加算（施設運営基準に包括化）	-	全利用者	全利用者
	低栄養リスク改善加算（廃止）	-	-	-
	・栄養マネジメント強化加算（新設） 栄養・リハ・口腔の一体的取組（LIFE）	11 単位/日	利用者全員 厚生労働省提出	利用者全員 厚生労働省提出
	・経口維持加算Ⅰ（変更なし）	400 単位/月	原則6月とする 要件廃止 30	原則6月とする要件廃止 10
	・科学的介護推進体制加算（新設） ・再入所時栄養連携加算（特別食者・低栄養状態者） ・退所時栄養情報連携加算	50 単位/月 70 単位/月 70 単位/回	全利用者 10 10	全利用者 3 3
通所系	・栄養アセスメント加算（新設）	50 単位/月	想定不能	29
	・（A）栄養改善加算	200 単位/月	想定不能	29（原則3月以内月2回を限度 必要に応じ居宅を訪問する要件）
	・（B）栄養スクリーニング加算（Ⅰ）（新設）	20 単位/回	想定不能	29（6月に1回を限度）
	※（A）と（B）の併算定は不可（Ⅱ）（新設）	5 単位/回	想定不能	29（6月に1回を限度）

※要件（管理栄養士の常勤配置数を適切に確保）

以上

3

## 【令和7年度 事業計画】

### グリーンヒル居宅介護支援事業所

#### 1. 目 標

- ・ケアプラン数・・・ 80件/月（介護給付）  
10件/月（予防事業・総合事業）

#### 2. 方 針

- ・処遇困難ケースの受け入れ及び24時間対応
  - ・・・地域包括からの依頼により受け入れ、対応にあたる
- ・利用者の立場にたった公正中立の姿勢の確立
  - ・・・偏った事業所へのサービス調整を行わない  
(集中減算にならない)
- ・八千代市から指定を受け介護予防支援を実施
- ・情報共有の強化及び個々のスキルアップ
  - ・・・定例会議（月1回）  
処遇検討会議（週1回）  
事業所内研修（月1回）  
外部研修  
地域包括主催の研修  
ケアマネネット研修

※多様化・複雑化する課題に対応するための取り組みとしての「ヤングケアラー、障害者、生活困窮者、難病患者等、他制度に関する知識等に関する事例検討会、研修」への参加。
- ・認定調査受託・・・八千代市、他市町村・・・8件/月
- ・ICT（すぐろく）活用による業務効率化の継続、
- ・その他・・・法人行事支援（納涼会、敬老会等）

#### 3. 今後の検討課題

介護支援専門員の職員体制を整える。但し、整えられない場合については、後期を目安に八千代台との合併での事業継続の検討を考える。

令和7年度 グリーンヒル居宅介護支援事業所

## 会議・研修計画

### 令和7年（2025年）

- 4月 : 定例会議、事例検証  
: 事業所倫理規定、
- 5月 : 定例会議、事例検証  
: 事業計画、個人情報の取り扱い
- 6月 : 定例会議、事例検証  
: 介護サービス計画の全体的評価、
- 7月 : 定例会議、事例検証 (グリーンヒル八千代台居宅との合同)  
: ハラスメント対策
- 8月 : 定例会議、事例検証  
: 医療との連携
- 9月 : 定例会議、事例検証、内部ケアプランチェック  
: 感染症予防対策
- 10月 : 定例会議、他法人との事例検証  
: 人権擁護、虐待防止
- 11月 : 定例会議、事例検証 (グリーンヒル八千代台居宅との合同)  
: BCP 対策 災害時の対応
- 12月 : 定例会議、事例検証  
: 居宅介護支援記録

### (2026年)

- 1月 : 定例会議、事例検証  
: 困難事例等検証
- 2月 : 定例会議、事例検証 (グリーンヒル八千代台居宅との合同)  
: 情報開示
- 3月 : 定例会議、事例検証  
: 事業計画の達成 (次年度に向けて)

- 注) 1 各月研修内容は、法令等の改正により変更あり。  
2 外部研修受講により、受講内容の伝達研修の実施。

# 令和7年度 通所介護事業計画

## 1. 基本理念

【ハートフル・デイサービス】

手から手 心から心 笑顔とやすらぎを

## 事業目標

一日の平均利用者数20名、登録者50名を目標に新規ご利用者の獲得を目指す。  
学習療法や脳トレ、個別の機能訓練など、個別プログラムの提供や、外出や散歩、おやつ作りなど少人数で行うプログラムの充実。また、ボランティア団体の受け入れなども行い、皆さんに楽しんで頂けるデイサービスを目指す。  
施設併設のデイサービスとして、受け入れの窓口を広げ、職員全体でサービスを提供していく。

### ① 利用対象者

- 1) 介護認定において要介護状態であると認定された方  
(八千代市総合事業対象者・要介護度1～5)
- 2) 八千代市全域・佐倉市志津地区地域の方

### ② 営業時間

- ・月曜～土曜(祝日を含む) 8時30分～17時30分
- ・サービス提供時間 9時30分～16時40分  
(7時間以上8時間未満)

### ③ 利用定員

- ・定員 1日37名
- ・目標人数 1日平均20名

### ④ 職員配置

- ・管理者 1名 ・相談員 1名
- ・介護職員 9名(常勤5名 非常勤4名)
- ・看護職 2名 ・理学療法士 1名

### ⑤ 会議、ケアカンファレンス

- ・リーダー会議、全体会議、各月1回
- ・個人ケースカンファレンス(全体会議にて)
- ・月1回の事業所内研修を行う

【令和7年度 事業計画】(案)  
特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台  
短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策

- 稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）。  
・年間稼働率 99.75%目標（長期+短期：39床に対し 38.89名以上の稼働）
- 現算定加算各種の継続。
- Hug・走行式リフト等の移乗機器を活用することで生産性の向上を図る。  
（身体負担軽減、腰痛予防、欠勤・早退率の低減と離職率低下への働きかけ）  
働きかけることで生産性の向上を図る。
- 見守りカメラ・インカム等を活用することで生産性の向上を図る。  
（必要のないムダを削減、事故防止および録画像を用いて事故再発防止策の  
具体策を提示）

2. 組織体制の強化

- ①LIFEによる一層の浸透と科学的介護の推進によるアウトカム評価の強化。
- ②ブルーオーシャンシステム、LINEWORKSを活用しての情報共有、他部署、  
多職種と連携し、臨機応変で柔軟なケアの提供に努める。
- ③アセッサーによる現場職員の技術評価等、適切な介護技術の指導と評価を行い、  
介護職員全体のレベルアップおよび質の向上に努める。
- ④基本介護における基盤強化に努め、ユマニチュード（包括的ケアメソッド：  
「見る」「話す」「触れる」「立つ」）を用い、「その人らしさ」を重視したケアの  
提供に努める。
- ⑤事業所内の他部署（小規模多機能・サテライト・居宅介護支援・訪問介護・  
キッズルーム）との連携・協働をさらに深め、ご利用者の利益を最優先する。

3. 地域包括ケアシステム（地域福祉の拠点）における特養の役割の実現

- ・共生型ふらっとホームの実施、また地域の認知症カフェへ職員を派遣し、  
地域との交流および連携を継続する。
- ・福祉避難所としての役割を認識（理解）し、震災時等における地域住民との  
連携について各所で共有を図る。

以上

(案)

## 令和7年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援

### 事業計画書

1. 事業所名称  
社会福祉法人 翠耀会  
グリーンヒル八千代台居宅介護支援
2. 運営の方針
  - ・当事業所の介護支援専門員は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じた日常生活を営むことができるよう配慮し行います。
  - ・事業の実施は、利用者の選択に基づき、多様なサービス事業所から総合的・効率的に提供されるよう配慮し行います。
  - ・事業は、常に利用者の立場に立ち、公正中立に行います。
  - ・事業の運営に当たっては、関係市町村、サービス提供事業者等との綿密な連携に努めます。
3. サービスの内容
  - 1) 利用の申込相談
  - 2) 居宅介護支援事業所の内容説明
  - 3) 契約締結
  - 4) 要介護認定の確認（未申請の場合は申請手続きの支援）
  - 5) 訪問調査
  - 6) 居宅サービス計画の作成・説明及び同意
  - 7) 居宅サービスの提供
  - 8) 居宅サービス実施内容の経過観察、再評価
  - 9) 次回要介護認定手続きの支援
4. 利用対象者  
要介護・要支援の介護認定を受けた、介護保険証を所持の方。
5. 営業日時  
平日 午前8時30分から午後5時30分  
祝日 午前8時30分から午後5時30分  
休業 日曜および12月31日から1月3日
6. 利用定員  
要介護認定者 約95名 要支援認定者 約20名
7. 職員配置  
管理者 1名（兼）主任介護支援専門員1名 介護支援専門員3名
8. 会議  
定例事業所会議 毎週月曜日 午前 8時30分より ※開催曜日変更あり  
居宅定例合同会議 7月・12月・2月 開催  
併設、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所等の行事支援
9. 研修等  
介護支援専門員現任研修、認定調査員研修、やちよケアマネネットワーク開催研修、関係機関開催研修に参加、介護支援専門員実務者研修の実習受け入れ

ア

令和7年度 グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業所  
会議・研修計画 (案)

令和7年(2025年)

- 4月 : 定例会議、事例検証  
: 事業所倫理規定、ハラスメント防止対策
- 5月 : 定例会議、事例検証  
: 事業計画、個人情報の取り扱い
- 6月 : 定例会議、事例検証  
: 介護サービス計画の全体的評価、防災(居宅として)
- 7月 : 定例会議、事例検証 7月11日(本部事業所との合同)  
: 災害時の対応、BCP対策
- 8月 : 定例会議、事例検証  
: 情報開示
- 9月 : 定例会議、事例検証、内部ケアプランチェック  
: 感染症予防対策
- 10月 : 定例会議、他法人との事例検証  
: 人権擁護、虐待防止
- 11月 : 定例会議、事例検証 11月7日(本部事業所との合同)  
: 重層的支援の知識習得に関する研修
- 12月 : 定例会議、事例検証  
: 居宅介護支援記録

(2026年)

- 1月 : 定例会議、事例検証  
: 困難事例等検証
- 2月 : 定例会議、事例検証 2月13日(本部事業所との合同)  
: 医療分野との連携
- 3月 : 定例会議、事例検証  
: 事業計画の達成(次年度に向けて)

- 注) 1 各月研修内容は、法令等の改正により変更あり。  
2 外部研修受講により、受講内容の伝達研修の実施。

## 1. 目標稼働・目標施策

稼働率 月28名以上の稼働 年間稼働率98%目標 平均介護度2.7 定員29名 (泊り9床・通い18名・訪問29名)

①認知症加算の算定(Ⅱ)(Ⅲ)(Ⅳ)(予防無) 若年性認知症利用者受入加算 ②看護職員配置(Ⅰ)加算 ③看取り連携体制加算 ④訪問体制強化加算 ⑤総合ケア・Mト体制強化加算(Ⅰ) ⑥口腔・栄養スクリーニング加算(6ヵ月/1回限度) ⑦科学的介護推進体制加算(3月に1回) ⑧生産性向上推進体制加算(Ⅱ)(Ⅰを目指す) ⑨サービス提供体制強化加算(1) ⑩介護職員等処遇改善加算Ⅰ

## 2. 実行計画(3ヵ年計画[R6~8]) 介護の質の向上につながる組織力向上と業務革新

重度者対応が必要不可欠であり、医療から介護への流れが起こる中、事業者による「医療対応」や「看取り」の強化が求められ、よりニーズが多様化していく中で、業務を見直し、限られた資源(人材等)を用いて一人でも多くの利用者に質の高いケアを届けるため、オールカウ-ではなく対応や活動におけるプロ化が目指せる仕組みの構築が必要となる中で、地域の実情に応じた普及のため、複数事業所で人材を有効活用し、より利用者に身近な地域でサービス提供が可能となるよう、サテライト型事業所の設置を本体【八千代台】中心に、サテライト2事業所体制とする強化を図る。

- ① 地域包括ケアシステムの深化・推進=認知症への対応力向上へ向けた取り組み/看取りへの対応の充実/医療、介護の連携【ACPに積極的に関われる仕組みを構築】/緊急時対応の強化
- ② 自立支援・重度化防止を重視した質の高い介護サービスの推進=適切なケアプラン充実、アセスメントとサービス量の適正化(見直し)を行い、サービス量の余力を生み出す
- ③ 介護人材の確保・介護現場の生産性の向上=ICT・IOT・タブレット・イヤホン・センサー・電磁的記録等導入によるテクノロジーを活用し、業務のムダ・ムラを見直しご利用者との直接関わる時間を増やし、サービスの質の向上・生産性向上を目指す
- ④ ガバナンス統制・組織力強化=法令遵守及び職員倫理のより重要視化/業務分掌整理/リスクマネジメント・防災対策への対応力強化/BCP,消防,防災計画,避難確保と計画見直し/地域連携(福祉避難所等)/高齢者虐待防止の推進/人権擁護と身体拘束廃止の理解/感染症対策強化

## 3. 行動計画

- ① 「マルチモーダルコミュニケーションケアの実践」ユマニチュードを理解し「見る」・「触れる」・「話す」・「立つ」の各要素の組み合わせも含めたコミュニケーションを心がけ、職員研修(認知症実践者研修及び認知症リーダー研修)の推進。
- ② 医療機関との連携を強化、医療・ケアチームがタイミングを逃さずに支援できるように、具体的なタイミングを明示し、医療・ケアチームがACPに積極的に関われる仕組みを構築していく。
- ③ 各会議での意見交換、担当職員からの発信や対応についての検討ができるように日々の『報告・連絡・相談』を徹底していき、個々のご利用者に適切なサービス量が提供できるよう、内容の適正化・具体的なケア計画を立て、統一を図って質の向上を目指します。
- ④ 地域に密着した生活支援の提供として、なじみの関係や地域資源も活用し、生きがい作りへの支援へと繋げ、福祉授業・夏祭り・餅つき大会等地域住民の方々と小中学校や学童保育との交流等、地域拠点としての役割を果たすべく積極的に取り組み、世代間交流・共生cafe ふらっとホームの開催・地域のフェスタや認知症カフェへの協力など行ない利用者とともに参加し、支え合いの輪を広げる。
- ⑤ 1日の中でメリハリのあるプログラムの提供を行ない、カラオケ機械やコミュニケーションロボットも活用、各機能を活かしたレクリエーション・体操(身体・口腔)・脳トレ・回想法・個々利用者の趣味活動のメニューを提供し、楽しんで継続できるよう、披露する場の環境を整え、定期的な作品展・機能維持・重度化防止を目指す取り組みの一つとして実施していくと共に、広報誌での活動紹介、外気浴や散歩、季節感を感じられる行事イベントにも積極的に出向いていく。
- ⑥ 利用者に対してケアやサービスを提供するだけでなく、地域住民が利用でき、インフォーマルな場所の拠点とし、専門的なケアやサービスとの「結節」できるようにする。

## 【令和7年度 事業計画 案】

### 小規模多機能型居宅介護 グリーンヒルサテライト勝田台

#### 1. 目標稼働・目標施策

稼働率月17名以上の稼働 年間稼働率95%目標 平均介護度1.6 定員18名(泊り3床・通い11名・訪問18名)

- ①認知症加算の算定(Ⅱ)(Ⅲ)(Ⅳ)(予防無) 若年性認知症利用者受入加算 ②看護職員配置(Ⅰ)加算(予防無) ③看取り連携体制加算(予防無) ④訪問体制強化加算(予防無) ⑤総合マネジメント体制強化加算(Ⅰ) ⑥口腔・栄養スクリーニング加算(6か月/1回限度) ⑦科学的介護推進体制加算(3月に1回) ⑧生産性向上推進体制加算(Ⅱ)(Ⅰを目指す) ⑨サービス提供体制強化加算(Ⅰ) ⑩介護職員等处遇改善加算Ⅰ

#### 2. 実行計画(3ヵ年計画[R6~8]) 介護の質の向上につながる組織力向上と業務革新

認知症やフレイル(加齢による心身の弱体化)防止と「生きがい」や「地域とのつながり」を持って在宅生活を送って頂けるように支援とマネジメントを兼ね備え、本体(八千代台)との協働によるきめ細やかな日常生活を支える多機能化を目指しつつ、パラダイムシフトによる人員の確保と活用行う。また、共生社会の実現に向けて、地域住民が大切に積み重ねてきた価値観を尊重しつつ、一人ひとりが活躍でき支え会える「場」や地域に必要な「機能」を、ともに検討していく地域拠点としての役割を担う。

- ① 職員定着率アップ・介護人材の安定化図っていく共に、ICT・IOT 導入によるテクノロジーを活用し介護人材の確保と現場革新【生産性向上】を目指す。
- ② 質の高い介護サービスの推進＝口腔・栄養への取組み連携、各医療機関等との強化・PDCA サークルの推進
- ③ 制度の安定性・持続可能の確保として、個々の利用者へのサービス量の適正化/リスクマネジメント/クリティカルマネジメントへの対応力強化・【ACP】ご本人の希望や意思を話し合う取り組み、介護事故のリスク把握・予防/BCP,消防,防災計画,避難確保と計画見直し/地域連携(福祉避難所等)/高齢者虐待防止の推進/人権擁護と身体拘束廃止の理解/感染症対策強化

#### 3. 行動計画

- ①ユマニチュードの技法を職員間で学び、新しい職員にも伝達し実践する。認知症 BPSD(行動心理状態)やニーズを「見える化」した具体的な支援計画を立てチームで統一的なケアを行う。
- ②ブルーオーシャン・LINE WORKS を活用して即時の情報共有、多職種と連携しご利用者の状態に合わせて通い・訪問・泊りのサービスを臨機応変に提供し、柔軟な対応で日常生活を支える。
- ③運営推進会議や看護小規模部会で事例検討を実施及び、内部研修・外部研修に参加し知識・技術の向上を目指し、参加した職員は内容を情報発信し伝達研修を行い、職員間で学びを共有する。
- ④勝田台ステーションギャラリー作品展の開催・認知症カフェ・地域サークルや地域活動への参加を支援し、「生きがい」や「地域とのつながり」を継続すると共に、地域・自治会と協働した取り組みとして、環境美化活動・広報誌の発行・防災訓練・災害時の連携への体制づくりを実施する。
- ⑤ご利用者のできる事、やりたい事を知り、一緒に行ったりできる場を工夫して提供する。季節のおやつ作り、パン作りなどのお楽しみ企画や外出を計画して、ご利用者の役割りや生きがい、楽しみを提供する。
- ⑥おとなの学校や脳トレ、音楽療法、生活総合機能改善機器を活用して一日の中で面白い、楽しいと感じる活動時間を設けてメリハリのある生活作りをする。

## グリーンヒル八千代台 訪問介護 【令和7年度 事業計画】

### 1. 事業の目的と方針

本事業は、主に八千代台地区の高齢者が住み慣れた自宅で安心して生活できるよう、質の高い訪問介護サービスを提供することを目的とします。また、今年度は新たな取り組みとして、地域密着型通所介護事業所「南デイホーム」との連携を強化し、包括的な介護サービスの提供を目指します。

### 2. 事業内容

1. 介護サービス（身体介護・生活援助）
2. 総合事業（訪問型サービス）
3. 自費サービス（受診院内介助等、介護保険サービスでは対応できないが利用者にとって必要なサービス）

### 3. 八千代市の状況

八千代台地区の高齢化率は増加傾向にあり、在宅介護の需要が高まっています。八千代市の高齢者福祉計画においても、訪問介護のサービス給付費の見込みは増加の一途をたどり、供給が追いつかなくなると予想されます。外部居宅ケアマネからの依頼も多く、ヘルパーの確保には苦慮している様子。特に要支援の方への訪問を受ける事業所は少ない状況とのこと。

### 4. 目標

- 利用者目標：40名

事業の安定した運営を目指し、着実な成長を図ります。

### 5. 職員の確保・育成

- ご利用者・家族への訪問介護の役割についての丁寧な説明、ケアマネージャー（特に外部居宅支援事業所）との緊密な関係の構築により、効率のかつ正当なサービス運営に努めます。
- 研修・OJTを活用し、訪問介護員のスキルアップを推進。またシフト制（一人のご利用者に多数のヘルパーがかかわる体制）により一人で悩むことなく意見交換をしながら業務にあたることのできる環境を整備します。

- 事務所環境の改善：南デイホーム2階の一面も待機場所として活用することで、新規職員の受け入れ態勢を整えます。

訪問介護員の確保と定着率の向上を目指します。

## 6. 南デイホームとの連携強化

- 在宅サービスの課題である、関係事業所同士の情報共有のしにくさを解消し、八千代台訪問介護と南デイホーム両方を利用されている方の利便性を向上します。
- 介護スタッフの相互支援により、スケールメリットを活かし、スタッフの負担軽減を図ります。
- 双方のご利用者に対し、お互いの事業を広報することができます。

スムーズな情報共有・連携体制の構築を実現します。

## 7. 会議

- 定例会議および研修会： 毎月末月曜日 12:30～13:30  
(状況により参集しやすい日程を設定)  
研修計画については別途参照。個別研修計画を策定します。

以上

## 令和7年度 訪問介護研修計画

グリーンヒル八千代台訪問・指定訪問介護

研修日時 (予定)	研修内容
4月	令和7年度事業計画について <b>感染症等の予防、まん延防止、食中毒対策</b>
5月	ヘルパー業務の区分と実際 ・初回訪問手順、サービスに関するルール、記録の書き方、報告の仕方 ハラスメント防止・対策 ・ハラスメントの理解、法人の方針、対策の必要性、相談の受付・対応について
6月	<b>プライバシー・個人情報保護</b> ・ご利用者の個人情報やプライバシー保護のためのルールについて <b>接遇マナー</b> ・挨拶や身だしなみなどの接遇の基本、声掛けの注意点
	<b>認知症と認知症ケア</b> ・「認知症の方が能力に応じて自立した日常生活を営む」ことを支援するために必要な知識や技能について
8月	リスクマネジメント 身体拘束廃止
9月	ターミナルケア
10月	身体介護実技研修
11月	<b>BCPについて</b> ・自然災害や感染症が発生した場合、発生時の対応とその後の業務継続計画に沿った事業再開までのフローについて <b>緊急時対応</b> ・ご利用者の急変への対応方法
12月	相談、苦情対応マニュアル ・相談、苦情事例の検討
1月	介護手順、マニュアルの見直し <b>事故事例、ヒヤリ・ハット事例の検討</b>
2月	<b>高齢者虐待防止</b> ・虐待防止のための指針・マニュアルの理解
3月	業務改善検討会議、事業計画達成 <b>倫理及び法令順守</b> ・介護保険法や高齢者虐待防止法、労働基準法など業務に関係する法令等の理解と法令順守の重要性についての研修

令和7年度 グリーンヒル指定訪問介護（サテライト）  
事業計画

1. 事業の目的と方針

介護保険の目的は「介護が必要となった者の尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要なサービス提供する」を再認識し以下の目標を掲げる。

- 1) 訪問介護サービスマニュアル『ハート・トゥ・ハート』に沿ったサービスの提供。
  - ・法人の理念である「グリーンヒルの心」を常に心がける。
  - ・ヘルパーとしての対人関係形成・観察力・介護技術力・緊急時、災害時などの適切な対応。
  - ・利用者及び関係者のプライバシー・個人情報の管理。また、ご自宅の鍵預かり（キーボックス対応含む）の厳重管理。
- 2) ヘルパーとしての介護技術向上を目的とした研修の実施。
  - ・毎月1回の定期研修にヘルパー全員の参加を促す。
  - ・学びたい項目ごとに個別研修を実施する。
    - 移動・移乗の方法、排泄介助・清拭の方法、嚥下困難者に対する介護
    - 認知症介護、感染症の具体的な予防、緊急時・災害時の対応
    - ヘルパーによってサービス方法が違わないよう提供サービスの均一化を図る。
- 3) 安全な移送サービス、通院等乗降介助の実施。
  - ・法人職員としての自覚をもち、防衛運転に努める。
  - ・利用者が安心して医療機関に受診できるよう身体の状態、家屋の状況、家族関係を把握した上で移送及び乗降介助を行う。
  - ・運行車両の日常点検を行い、保安基準を満たした運行に努める。
- 4) BCP 策定に基づき研修及び訓練を行う。

2. 事業内容

- 1) 介護サービス（身体介護／生活援助）、
- 2) 日常生活支援総合事業（訪問型独自）
- 3) 介護輸送サービス（通院等乗降介助）
- 4) 自費サービス（受診院内介助等、介護保険サービスは対応できないが利用者にとって必要なサービス）

営業日 : 月曜日から土曜日（祝日も含む）

8：30～17：30 までを基本とし、利用者のニーズに対応するため、時間外についても柔軟に対応する。

### 3. 目標数値

- ・ 利用者数：1 ヶ月目標 30 名（総合事業及び通院等乗降介助を含む）
- ・ 介護輸送（運賃）10 件

### 4. 会 議

- ・ サテライト定例会議及び研修会 毎月末ごろ 17：30～18：30
- ・ サービス提供責任者会議 随時
- ・ 八千代台定例会議参加

### 5. 今後の課題

- ・ 事業所としての最低ライン、常勤換算 2.5 名の確保が必須
- ・ 八千代台の訪問介護サテライト事業所との連携をどのように構築するか。

以上

## 令和7年度 訪問介護研修計画

グリーンヒル指定訪問介護

研修日時 (予定)	研修内容
4月	ヘルパー業務の区分と実際 倫理規定・基本姿勢・行動指針・接遇
5月	個人情報保護管理について 感染症・食中毒予防マニュアル
6月	令和6年度事業計画について 法人内研修報告
7月	認知症介護について
8月	突然の事故・緊急対応時マニュアル
9月	自然災害発生時の対応及び訓練
10月	高齢者虐待に関する事項について
11月	相談、苦情対応マニュアル 鍵の管理、金銭管理について
12月	インフルエンザ・ノロウイルス等感染症について ノロウイルス等の対処方法について (実技)
1月	・事件事例、ヒヤリ・ハット事例の検討 ・苦情、相談事例の検討
2月	自己評価
3月	業務改善検討会議 マニュアルの見直し 事業計画達成状況の確認

17

# 令和7年度 グリーンヒル八千代台南デイホーム 事業計画 案

## 1. 目標稼働・目標施策

稼働率 a. 1日 平均利用者数 6名 b. 平均介護度 2.3 c. 登録者数 20名以上(想定:支4:介16)  
地域区分5級地 入浴介助加算(I) 1日/40単位(II) 1日/55単位 個別機能訓練加算(I) 1日/56単位  
栄養アセスメント加算 1月/50単位 栄養改善加算 1回/200単位(月2回を限度) 科学的介護推進体制加算 1月/40単位  
若年性認知症利用者受入加算 1日/60単位 サービス提供体制強化加算(I) 1回/22単位を加算  
介護職員等処遇改善加算(I)(1月につき +所定単位×92/1000)

## 1. 実行計画 (3カ年計画[R6~8])

- ・ご利用者にとって『気兼ねなく自由に過ごせるところ』『元気がでるところ』『日々のストレスを発散できるところ』『楽しくお喋りができるところ』となり、ご利用者から「ここは楽しいところね。」「また、ここに来たいわ〜」と書いていただけるような場所にする。
- ・事業所がより柔軟にサービスを提供できる環境を整備し、訪問介護との連携を強化し、次期改定を見据えた体制づくりを行っていく。

## 2. 行動計画

【送迎】ご自宅の玄関と当ホームまで、往復の送迎を安全安心できる運行を行います。

【昼食】家庭的な雰囲気の中で、手作り料理を職員と一緒に楽しんでいただきます。

【入浴】ご利用者の自宅の状況に近い環境で入浴介助を実施し、ADLの維持・向上に努めます。

【機能訓練】モーションAI利用し、身体機能の評価データに基づく個別機能訓練の提供の実施。

【アクティビティ】

ご利用者が主役のおやつ作り(パンづくり)・手芸や工作・壁面飾り・買物・季節を感じられるような外出や皆さんで楽しめるゲーム等を提供し、日常生活動作の向上に努める。

【季節行事】お花見、夏祭り、敬老会、クリスマス会、初詣、誕生会など

【生活相談】生活相談員がご利用者の皆様の様々な生活上のご相談に対応します。

【地域交流】事業所として、地域サークルや地域行事に積極的に参画していける体制の構築を行います。

## 3. 具体的な取り組み

- ・新規成約を獲得する⇒営業件数/新規問合せ数/見学・体験数/新規契約  
問い合わせのあった方の内、どなたが体験されて、どの程度が実際のご利用につながっているか一目でわかる表を作成し管理する、対応の抜け漏れというヒューマンエラーを減らし、体験利用の品質管理を行う。
- ・適切な利用量に足りない利用者へ増回を提案する⇒1人当たりの平均利用回数/延べ利用回数  
身体状況と目標設定を確認し、運動量が足りない方等には促すなど、個別ご相談にのっていく。
- ・キャンセル率を減らす⇒キャンセル率/キャンセル連絡の内、振替できた数

## 4 事業内容

対象者 : 要支援・要介護の方 営業日: 月曜日から土曜日(12/30~1/3を除く) 定員: 1日10名

職員配置: 管理者・生活相談員 介護職員1人以上又は看護師1人以上 機能訓練指導員1人以上

研修等 : 教育研修委員会の研修参加(プログラムに沿って) 外部研修会・事業所内研修(OJT含む)

定例会議 月1回 多職種会議 月1回 事業所間会議 月2回

18

【令和7年度 事業計画】  
放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ 村上

1. 目標稼働・一日のスケジュール

- ①稼働率 a. 月200回以上の稼働 b. 年間稼働率95%目標  
②一日のスケジュール

時間	学校休業日	時間	平日
10:00頃	自宅迎え or 保護者送り	14:30頃	学校迎え or 来所
10:30	学習(宿題・能力に応じた学習)	15:00	学習(宿題・能力に応じた学習)
12:00	お昼(各自お弁当)	15:30	ソーシャルスキルアップゲーム
13:00	ソーシャルスキルアップゲーム	16:00	からだあそび SST
15:00	おやつ	16:30	おやつ
15:30	からだあそび SST	16:50	帰りの会
16:00	自宅送り or 保護者迎え	17:00	自宅送り or 保護者迎え

2. 事業所の重点目標

- ①障害者虐待防止法を遵守し、利用者一人一人に寄り添った支援を行う。
- ②支援の情報共有を図るため、職員間で話しやすい雰囲気をつくる。
- ③利用児童が楽しいと思える環境を整え、児童との共感を常に忘れずに、笑顔の絶えない、明るく、楽しい職場づくりに努める。
- ④茶話会の開催や外出体験等、家族と一緒にいる活動を提案し、家族支援を含め総合的な観点から支援を行う。
- ⑤ 障害への専門性をもち、児童、保護者の立場を考えた適切な支援を行う。

3. 支援等の具体的内容

- ①遊びを通じた療育活動 運動活動 学習活動 音楽活動 創作活動 各種体験活動 健康管理を行い、日常生活の中での助言、相談 他の福祉サービスの情報提供・サービスの利用方法の助言を行い、関係機関や学校と連携し個別支援計画を作成し、実施する。
- ②SST/応用行動分析(ABA)/構造化を組み合わせた療育による理解と実践に努める。
- ③人材安定確保に努め、安全なサービス提供と運営に努めると共に、関係機関との連携を図り、サービス利用ができるように支援する。

4. 研修体制

最新の障害特性理解や支援方法、今後の障害支援が学べる研修に参加し、支援技術や視点の向上を図る。子ども達への支援方法で職員がもっている技術を全員で習得し、共有できるように内部及び外部研修を実施していく。

5. 関係機関との連携

- ・事業の実施にあたっては、下記の機関と連携を密にし、利用者の適切な支援とサービスの提供に努める。(当該市子ども相談センター及び児童相談所、学校、相談支援事業所その他の放課後等デイサービス事業所や福祉サービス事業所等)
- ・ブログ等を通じ、活動内容・状況についての情報発信を行う。

6. 安全管理・緊急時の対応

- ・避難訓練(防災・防犯)を月1回定期的を実施
- ・月例会議 第4木曜日(都合により変更あり) 10:00~ 月1回開催  
※学校休業にあたる場合は第4木曜日(都合により変更あり) 17:00~開催

以上

【令和7年度 事業計画】

放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ ゆりのき台

1. 目標稼働・一日のスケジュール

- ①稼働率 a. 月200回以上の稼働 b. 年間稼働率100%目標  
 ②一日のスケジュール

時間	学校休業日	時間	平日
10:00頃	自宅迎え or 保護者迎え	14:30頃	学校迎え or 来所
10:30	学習(宿題・能力に応じた学習)	15:00	学習(宿題・能力に応じた学習)
12:00	お昼(各自お弁当持参)	15:30	ソーシャルスキルアップ・ゲーム
13:00	ソーシャルスキルアップ・ゲーム	16:00	おやつ
15:00	おやつ	17:00	からだあそび SST
15:30	からだあそび SST	16:50	帰りの会
16:00	自宅送り or 保護者迎え	17:00	自宅送り or 保護者迎え

2. 事業所の重点目標

- ①障害者虐待防止法を遵守し、利用者一人一人に寄り添った支援を行う。
- ②支援の情報共有を図るため、職員間で話しやすい雰囲気をつくる。
- ③利用児童が楽しいと思える環境を整え、児童との共感を常に忘れずに、笑顔の絶えない、明るく、楽しい職場づくりに努める。
- ④父母の会の開催や外出体験等、家族と一緒にを行う活動を提案し、家族支援を含め総合的な観点から支援を行う。
- ⑤ 障害への専門性をもち、児童、保護者の立場を考えた適切な支援を行う。
- ⑥不登校児童生徒の状況に応じた学習活動・安心して過ごせる場所の提供などを行い、フリースクールとして個性を大切にされた社会的支援を行う。

3. 支援等の具体的内容

- ①遊びを通じた療育活動 運動活動 学習活動 音楽活動 創作活動 各種体験活動 健康管理を行い、日常生活の中での助言、相談 他の福祉サービスの情報提供・サービスの利用方法の助言を行い、関係機関や学校と連携し個別支援計画を作成し、実施する。
- ②SST/応用行動分析(ABA)構造化を組み合わせた療育による理解と実践に努める。
- ③人材安定確保に努め、安全なサービス提供と運営に努めると共に、関係機関との連携を図り、サービス利用ができるように支援を行う。

4. 研修体制

最新の障害特性理解や支援方法、今後の障害支援が学べる研修に参加し、基礎技術やシテンの向上を図る。子どもたちへの支援方法に関して、職員が持っているスキルを全員で習得し共有できるように、内部・外部研修を実施する。

5. 関係機関との連携

- ・事業の実施にあたっては、下記の機関と連携を密にし、利用者の適切な支援とサービスの提供に努める。(当該市子ども相談センター及び児童相談所、学校、相談支援事業所その他の放課後等デイサービス事業所や福祉サービス事業所等)
- ・ブログ等を通じ、活動内容・状況等についての情報発信を行う。

6. 緊急時の対応および安全管理

- ・避難訓練(防災・防犯)を月1回定期的に実施
- ・定例会議 第3木曜日(都合により変更あり)11:00~ 月1回開催

※ 学校休業にあたる場合は第3木曜日(都合により変更あり)17:00~開催

【令和7年度 事業計画】  
放課後等デイサービス グリーンヒルキッズ・ジュニア

1. 目標稼働・一日のスケジュール

①稼働率 a. 月200回以上の稼働 b. 年間稼働率100%目標

②一日のスケジュール

時間	学校休業日	時間	平日
10:00頃	来所 Or お迎え	15:00頃	来所 Or お迎え
10:30	学習	15:00	学習
12:00	お昼(各自お弁当)	15:30	個々の課題サポート
13:00	実践トレーニング	16:00	おやつ
15:00	おやつ	17:00	実践トレーニング
15:30	SST	17:30	SST
16:00	帰宅(送り有)	18:00	帰宅(送り有)

2. 事業所の重点目標

- ① 障害者虐待防止法を遵守し、利用者一人一人に寄り添った支援を行う。
- ② 支援の情報共有を図るため、関係機関や学校、職員間で話しやすい雰囲気をつくる。
- ③ 利用児童生徒が楽しいと思える環境を整え、児童生徒との共感を常に忘れずに、笑顔の絶えない、明るく、楽しい事業所づくりに努める。
- ④ SST・実践ワーク体験等と一緒に活動を行うと共、茶話会などを開催し、家族支援を含めた総合的な観点から支援を行う。
- ⑤ 障害への専門性をもち、児童生徒、保護者の立場を考えた適切な支援を行う。

3. 支援の具体的内容

(1) 各種活動

- ① 心と体の健康管理 医療機関等の連携等健康面の支援。
- ② 日常生活管理 規則正しい生活リズム・身なり・言葉遣い・摂食等の身辺面の自立等
- ③ 対人スキル コミュニケーション、協調性、ルールの遵守等
- ④ 作業スキル 職務遂行に必要な知識、技能
- ⑤ 実践トレーニング 軽作業、事務作業など職業訓練、進路相談、模擬面接
- ⑥ 学習活動 個別の特性に合わせた学習支援、ｽﾄｰｽﾞｽﾄ、金銭管理、SMS・男女間のマナー等

(2) 定期個別相談・不定期相談等

4. 研修体制

最新の障害特性理解や支援方法、今後の障害支援が学べる研修に参加させ、支援技術や視点の向上を図る。利用者への支援方法で職員がもっている技術を皆で習得し、共有できるように内部及び外部研修を実施していく。施設外研修への参加

5. 関係機関との連携

・事業の実施にあたっては、下記の機関との連携を密にし、利用者の適切な支援とサービスの提供に努める。(当該市子ども相談センター及び中央児童相談所、学校、相談支援事業所その他の放課後等デイサービス事業所や福祉事業所等)

・ブログ、広報誌等を通じ、活動内容・状況についての情報発信を行う。

6. 安全管理・緊急時の対応

・避難訓練(防災・防犯)を月1回(10日)定期的実施

・月例会議 第3金曜日(都合により変更あり)11:00~ 月1回開催

※学校休業にあたる場合は第3木曜日(都合により変更あり)16:30~開催

以上

2/

## 令和7年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業計画（自立援助ホーム）

### 1. 支援目標

若葉ハウス（自立援助ホーム）は、様々な理由から家庭で暮らすことができない、義務教育終了後、15歳からおおむね20歳までの女兒たちが、仕事や学校に行きながら生活をしていく場所です。令和七年度児童福祉法改定により、児童自立生活援助事業な拡充（満20歳以上の措置解除者等であって法令で定めるもののうち、～中略～その他法令で定めるやむを得ない事情により児童自立生活援助の実施が必要であると都道府県知事が認めたものに対し相談その他の援助を行う）となり、入所者支援はもとより、長期にわたっての関わりが大切になってくる。定期的に退所した後も連絡をとり（誕生日カードを贈る・ホームカミングデイなど）気軽に相談できる環境を整え、安心して生活できる「居場所」となるよう一つ一つの支援に取り組んでいきます。

### 2. 支援内容

- 1) 就労・就学への取り組み姿勢及び職場の対人関係についての相談・援助。
- 2) 地域との連携を深めて、地域の理解を得るとともに協力体制を整える。
- 3) 社会生活を営むために必要な「生活力」を身につけさせる。
- 4) 必要に応じて心理的な側面から援助する。
- 5) 自立に向けての預金等、金銭管理の支援
- 6) 職場開拓・就労援助。
- 7) 児童相談所などとの連携による児童の家庭環境の調整。
- 8) 各関係機関との連携を図り児童の支援を強化する。
- 9) 当ホームを退所した後のアフターケア。

3. 定 員 女児 6名

5. 運 営 日 365日

6. 職員配置 ホーム長1名(指導員兼任) 、常勤職員1名、非常勤1名

7. 会 議 職員会議・ケース会議 月1回

8. 研 修 全国自立援助ホーム協議会ホーム長研修、全国自立援助協議会全国大会  
その他内外の研修に積極的に参加する。

### 9. 今後の課題

昨年度から体制が変わり、「若葉ハウス」の再スタートとなりました。関係各所（千葉県、各児童相談所など）との円滑な関係を構築し、安定した施設運営に努めます。スタッフ一同心を込めて一つ一つの支援に取り組んでまいります。

## 令和7年度 勝田台地域包括支援センター 事業計画

### 1. 重点目標

国のガイドライン改正を受けて、八千代市として総合事業の本格始動に向けた動きだす年となる。介護保険制度だけではなく多様な選択肢を地域に増やす取り組みを行い、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、各業務との連携を重視して取り組む。また、住民や関係機関の理解を得ることが必要不可欠なので、行政とも連携を図ってゆく。

### 2. 職員体制

- ・ 包括的支援業務職員  
主任介護支援専門員・社会福祉士・看護師、保健師・・・6人  
認知症地域支援推進員・・・1人（兼務）  
第2層生活支援コーディネーター・・・1人（専任）
- ・ 介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援・・・社会福祉士1人
- ・ 事務員（兼務）1人

### 3. 業務内容

#### 1) 総合相談支援業務

- ・ 地域包括支援センターの周知・高齢者の総合的な相談支援を行い、台帳でケース管理をする。

#### 2) 権利擁護業務

- ・ 高齢者虐待の防止啓発・消費者被害等の予防啓発
- ・ 成年後見についての相談、支援

#### 3) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- ・ ケアマネ交流会
- ・ 多職種研修会
- ・ 地域ケア会議
- ・ 圏域の居宅介護支援事業所が行う事例検討会等の参加及び開催協力
- ・ 介護支援専門員からの個別相談対応

#### 4) 介護予防普及啓発事業

- ・ 介護予防教室「いきいき教室」年15回実施予定
- ・ みんなの体操広場
- ・ 介護予防サロン開催における協力

#### 5) 認知症地域支援・ケア向上業務

- ・ 医療機関、認知症初期集中支援チームとの連携

- ・認知症サポーター養成講座及び交流会
- ・認知症に関する啓発、ともカフェの運営
- ・家族交流会の開催

6) 第2層生活支援コーディネーター業務

- ・地域の社会資源把握
- ・虚弱な高齢者のニーズと地域の社会資源のマッチング
- ・協議体の開催
- ・担い手養成講座の開催
- ・地域で活動しているグループの後方支援

7) 介護予防ケアマネジメント及び介護予防支援

- ・要支援1、2の方や総合事業対象者のケアプラン作成（包括的支援業務の職員で40件、プランナーで30件）
- ・委託ケース管理

4. 関係機関連携のための会議

- ・地域包括支援センター業務別会議（管理者・主任ケアマネ・社会福祉士・看護師、保健師・生活支援コーディネーター・認知症地域支援推進員）
- ・民生・児童委員定例会
- ・支会の定例会
- ・近隣医療連携会議
- ・運営推進会議
  - ・ニチイケアセンター八千代勝田台
  - ・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台
  - ・ケア・サービス花見川
  - ・ういずユ－勝田台デイサロン

5. 研修会

市の運営方針に示された基準を満たすように各職員に研修を予定する年間計画をたてる。また、関係機関が実施している研修会などにも積極的に参加し職員の資質向上を図る。

6. その他

専門学校及び大学の実習受け入れ  
八千代高等学校福祉教育授業協力  
地域行事協力及び後方支援

24

## 令和7年度 本部総務課 事業計画

### 人事関係

- 令和7年度年末調整提出書類の電子化を実施する
  - ・職員の既存データの移行
  - ・新規管理情報登録
  - ・職員自身による情報登録・修正・確認作業の周知
- 新規勤怠管理システムへの切り替えに伴う環境整備・運用推進および打刻実績の管理をする
- 令和7年度に法人が目指す新たな人事評価制度を構築するための準備作業と導入後の具体的運用までの支援に取り組む
- 人材確保（新卒者・中途採用者・外国人・障害者）のため、ハローワークのほか学校訪問・求人媒体企業と連携した自社採用・特定技能外国人や障害者の支援団体への働きかけによる積極的な人材採用を推進する
- 前年度に継続して、法人と職員双方の自己防衛および法人所有物の適正管理・運用のため、以下の項目の就業規則への追加記載および一部修正に取り組む
  - ・私有車（自転車を含むマイカー）通勤に関する内容
  - ・法人所有の携帯電話に関する内容
  - ・リファラル採用（法人職員からの紹介・推薦による採用）に関する内容

### 庶務関係

- 物価高騰への対応として引き続き物品確保のための価格調査と安定確保および災害時の備蓄品の選定と確保を図る

### 経理関係

- 多方面の支払いに備えるため、預金の流れを把握し担当者間の確認を確実にし資金移動を実施する
- 令和6年度の決算数値を基に現行の支出按分を見直す

### 情報関係

- 法人内の情報伝達を迅速・正確・安全に実施するための全拠点を繋ぐネットワークを構築する
- LINE WORKS（ビデオ通話・掲示板・個別既読確認等の法人向けのコミュニケーションツール）を上高野にも導入し、八千代台とのスケジュール管理等の情報共有をすることで事務作業の負担軽減・効率化を図る。導入後の効果等を検証後、他の拠点への導入を推進する
- IT関係の既存契約に関して利用頻度・効果を検証し、状況に応じて経費削減に取り組む